令 和 6年 度
中学生・高校生の税に関する作文集

狭山市 七夕の妖精
おりぴぃ

狭山市租税教育推進協議会

狭　　山　　市

目　次

中学生の税についての作文

埼玉県納税貯蓄組合総連合会　優秀賞

今、求められているもの　狭山市立堀兼中学校　三年　落合　璃子　1

埼玉県租税教育推進協議会　会長賞

消費税と私達の生活　狭山市立堀兼中学校　三年　横田　桃香　2

所沢税務署管内税務連絡協議会　会長賞

税金は本当に平等なの？　狭山市立堀兼中学校　三年　古賀　悠心　3

狭山市納税貯蓄組合長賞

思いやりの心をつなぐ税金　狭山市立西中学校　三年　石井　佳歩　4

狭山市優秀賞

社会と人々を繋げる税金　狭山市立堀兼中学校　三年　原嶌　優里　5

安全で安心な社会をつくるために　西武学園文理中学校　一年　城野　翔太　6

税に関する高校生の作文

埼玉県議会議長賞

新しい図書館　西武学園文理高等学校　二年　田中　迪実　7

所沢税務署長賞

笑顔税　西武学園文理高等学校　二年　齊藤　綾乃　8

所沢税務署管内税務連絡協議会　会長賞

戻ってくる税金　秋草学園高等学校　二年　森田　莉未佳　9

税金の重要性　西武学園文理高等学校　二年　髙橋　優奈　10

一般社団法人所沢法人会会長賞

第一歩	秋草学園高等学校	二年	中村　天音	11
日本というキャンバス	西武学園文理高等学校	二年	名古屋　紫央	12

所沢県税事務所長賞

誰もが暮らしやすい世の中に	西武学園文理高等学校	二年	宮岡　真央	13
税金でつなぐ支援の輪	西武学園文理高等学校	二年	村上　華奈映	14

狭山市納税貯蓄組合長賞

世界に誇れる行政サービス	西武学園文理高等学校	二年	木部　太陽	15

狭山市優秀賞

なぜ税があるのか	秋草学園高等学校	二年	後藤　美咲	16
かけがえのない日常	西武学園文理高等学校	二年	金谷　優美	17
我々と税	西武学園文理高等学校	二年	中園　雅大	18
みんなで応援税	西武学園文理高等学校	二年	山﨑　允誠	19

（埼玉県納税貯蓄組合総連合会　優秀賞）

今、求められているもの

狭山市立堀兼中学校

三年　落合　璃子

作文を書くにあたり、税について調べることにした。その中で特にひしひしと感じられたものの一つが、社会インフラの維持と設備である。

私は、車が好きだ。ドライブが好きだ。私が運転するわけではないけれど、父や母の運転する車の助手席で移り行く街並みや自然を眺めることが好きだ。夏には家族と草津へ行った。すいすいと山を車で駆けた。窓を開けると流れ込む、爽やかな風が最高だった。車で多くのところへ行ける。近いところにも遠いところにも。都会にも田舎にも。山にも海にも。税について調べる中で、これらのことができたのは税金によるインフラ整備のおかげであると悟った。少なくとも、今までの私では、道があるから車が走れるのだという当たり前のことにも気づけなかっただろう。そこで私は、他にも身近でありながら気づけていない、税の使い道があるのではないかと考えた。

まずはじめに思い浮かんだのは、学校である。考えてみれば、教科書は無償であるし、授業料は無料である。それどころかタブレットの配布などにも税が使われている。

次に思い浮かんだのは、水道だ。蛇口を捻れば、飲めるほどに綺麗な水が出てくる。調べたところ、水道水が安全に飲める国は一割に満たぬようで、日本はかなり恵まれているのだということが分かった。

無論、税が使われているものは、これまでに列挙したものだけではない。しかし、これらのことを調べて私は気づいた。税は、私たちの生活を豊かにするために使われているのではないかと。つまり、税とは良いもので、利点しかないのではないかと。

しかしながら、将来的に考えれば、そうとも言えないということが分かった。

今現在も進行している問題として挙げられるのが少子高齢化である。高齢者の増加によって社会保障費用が増える一方で、税収は横ばいのままとより大変となることが予測されているそうだ。

中学生にとって最も身近と言える消費税。それがどんどん増えていく様子を幼いながらに見ていた身としては、何も感じぬわけはない。特に、十円の駄菓子が十一円になったり、三十円の駄菓子が三十三円になったときは、かなりの衝撃を受けた。私は、未だ増えていくことばかりを意識して、消費税の恩恵を感じられたことがない。果たして、このままで良いのだろうか。

此度の作文を書く中で分かったことがある。それは、知らなければ、関心がなければ、きちんとした意見を持つことができないということだ。税の大切さ、納税の大切さ、これらについて皆で考えるためには、まず国の現状と税の使い道について深く知ることが求められているのではないだろうか。

（埼玉県租税教育推進協議会　会長賞）

消費税と私達の生活

狭山市立堀兼中学校

三年　横田　桃香

私は、中学三年生で受験生だ。勉強はしているつもりだけれど、なかなか成績が上がらない。夏休み前、塾の三者面談で夏期講習についての話をした時に、苦手な科目の授業に加え、朝から夜まで受験生みんなで勉強をする合宿にも参加した方が良いと言われた。合計金額が十万円以内になるように夏期講習の計画を立てたが、消費税が一万円くらいかかるので、結局、十万円を超えてしまった。こんなにお金がかかるなんて、親に申し訳ないと思ったのと、なぜこんなに消費税が高いのだろうと思った。

税金は働く大人が払うものだと思っていたけれど、私のような中学生も自分のお金で何かを買う時は、消費税という税金を払っている。消費税が自分達の生活にどのように使われているか知りたくなったため、調べることにした。

消費税は、商品の販売やサービスの提供に対してかかる税金だ。日本で初めて消費税が導入されたのは平成元年で、この時の消費税率は三パーセント。当時の日本は、急速に高齢化社会へと進み出したところだったので、医療や福祉のための財源確保を目的とした消費税が導入された。その後、消費税は時代と共に増え、平成三十一年には十パーセントになった。十パーセントは高いと思うけれど、イギリスやフランスは二十パーセント、北欧は二十五パーセントだと知って驚いた。海外と比べると日本の税率は低い方なので、もしかしたら消費税は、もっと上がっていくのかもしれない。

消費税は、年金、医療費、介護、少子化対策に使われている。医療費と聞いて思い出すのは、去年、中学校のテニスコート周辺で異臭がした時に、私は気分が悪くなり、救急車で病院に行くことになった。毒ガスだったらどうしようと思って怖かったけれど、病院で特に異常が無いと言われて、すごく安心した。その時、病院に支払ったお金はゼロだった。もし、病院に行くとお金がたくさんかかる社会だったら、私は病院に行かなかったと思う。お金の心配をしないで病院に行くことができ、安心した生活が取り戻せたことも、税金のおかげだと実感した。

学校教育にも税金が使われている。中学生、一人当たりの年間教育費は、約百万円だそうだ。教科書や教室にあるもの、実験器具や体育用具などにも税金が使われている。その税金を有効活用するためにも、学校のものを大事にし、楽しく学校生活を送ろうと思った。

将来社会人になって、消費税だけでなく、所得税や住民税などの税金をしっかりと納め、社会の役に立てるようにならなくてはと思う。そのためには、たくさん勉強をして志望校に合格をし、自分の夢の職業につけるように頑張りたいと思う。

（所沢税務署管内税務連絡協議会　会長賞）

税金は本当に平等なの？

狭山市立堀兼中学校

三年　古賀　悠心

現在、日本には約五十種類もの税金があることを知り驚きました。何故、そんなに沢山の種類が必要なのか不思議でしたが、国や地方公共団体が各々に税金を集めたり、特定の人だけから税金を徴収したりすることで不平等が生じてしまうことがないようにされているのだと知りました。また、納められた税金は、僕たちの暮らしの中の様々なところに使われていることも分かりました。

その中で、僕にとって一番身近に感じられたものは、学校や授業に関する「教育費」の部分でした。僕たちが、学校で授業を受けられているのも、勉強しやすい環境が整えられているのも税金があるからであり、税金のありがたさ、大切さを感じることができました。それと同時に、「高等学校の授業料無償化」は、地域によって大きな差があることにも気がつきました。僕の住んでいる埼玉県では公立高校の授業料は実質無償化になっており、数年前からは県内の私立高校への通学であれば所得制限はありますが、授業料の実質無償化が図られています。実質無償化になることで受験生にとっても選択の幅が広がり、より自分にふさわしい環境を選ぶことができるようになったのではないかと思います。しかし、その一方で、埼玉県の隣の東京都では二〇二四年度から所得制限を撤廃し、都内在住の世帯に対し、通学が都内外に関わらず授業料無償化という制度へと変わりました。埼玉県は東京都に隣接しているため都内の私立高校へ通学している人も多くいます。同じ学校に通っているのに、同じ学びをするのに「都内の人はタダ」で授業を受けることができるようになりました。しかし、それ以外の人は年間数十万円もの金額をかけて学ぶことになります。そのことに対して、僕は疑問や不平等さを感じることしかできませんでした。財政が潤っている地域では、より手厚い保障が受けられ、税金で負担してもらった授業料の分を塾代や留学等の費用に充てられるという喜びの声も目にしました。しかし、財政が厳しい地域では手厚い保障は受けられず、各家庭の負担は大きくなるばかりで、学力にも差が生じてしまったり、金銭面を考慮しなくてはならず希望する環境を諦めたり、夢を諦めざるを得なかったりする人の数は減らないのではないかと思いました。

住む場所に関係なく、どの世帯も、どの人も平等に教育が受けられ、将来への選択の幅が広がるような素敵な環境が整ってくれるといいなと思いました。

（狭山市納税貯蓄組合長賞）

思いやりの心をつなぐ税金

狭山市立西中学校

三年　石井　佳歩

今年のお正月、親戚のみんなと公園で遊んでいたときのことだ。周囲のスマホから緊急地震速報の警報音が鳴り響いた。帰宅後テレビをつけると石川県能登地方を震源とした地震が起きたことを知った。その後何回も石川県付近では揺れを観測し、夕食時や就寝前まで緊急地震速報が鳴り響き続けていたのを今でも覚えている。毎年、親戚のみんなと楽しみながら食べるすき焼きも、新年に対するめでたい気持ちと石川県で起きた地震に対する心配な気持ちが混じり合い、やるせない気持ちで食べていた。

遠い埼玉県に住む私でも何かできることはないかと調べて知ったのが税金だった。普段何気なく払っている税金が災害の復旧のために使われていることを私はその時初めて知った。今まで私が買い物をした時に払っていた少しのお金が、同じ日本に住む人が困っているときや助けを必要としているときに使われる税金のしくみにとても感心すると同時に自分がとても誇らしく思え安心した。

能登半島地震だけでなく、平成二十三年三月の宮城県沖を震源とした東日本大震災や、埼玉県でも河川が氾濫し浸水被害が多く出た令和元年東日本台風などの災害復旧・復興のためにも税金が使われていたことを調べていく中で知れた。私の住む埼玉県がピンチのときにも、税金によって埼玉県外の人々、遠い地方に住む人々の思いやる心がしっかりと伝わったと思う。そしてその税金のしくみによって救われた人がたくさんいるのだと感じた。今現在の埼玉県まで復興がすすんだのも税金のおかげだと思い感謝の気持ちもうまれてきた。

一人でも多くの人に私は税のしくみや税金の使いみちについて知ってもらい考えを深めてほしいと思った。何も知らずに税金を払い続けるよりも、今払う少しの税金が、今後の日本の誰かがピンチのとき、自分が助けを必要としているときに使われ、たくさんの人を救い笑顔にすることができると考えた方が誇らしく幸せな気持ちになれると思う。今後日本にどんなことが起こっても、全国の人々の思いやりの心をつなぎ、ピンチのときには助け合う、それを実現するためにこれからも私は税金を納めていきたい。

（狭山市優秀賞）

社会と人々を繋げる税金

狭山市立堀兼中学校

三年　原嶌　優里

夏休みが始まり、やっと中学校三年生になったことへの実感を感じます。高校受験に向けて夏期講習に通いながら、学校は塾とは違い、授業料や教材費を払う必要がないなと思いました。私たち子どもが自由に学ぶことができるように定められた義務教育期間が終わってしまうのだと思うと、今まで使ってきた小学生や中学生の教科書へのもの悲しさを感じます。

小学生の頃までは、「税金」という言葉を聞いて、子どもにはまだ早いなというイメージを持っていました。中学生になり、歴史の授業で税を学ぶことがありましたが、どの時代の「税金」も市民にとっては、負担が大きく、苦しいものだと解釈していました。ですが、よく考えてみると、身の周りには「税金」によって支えられている物事があふれていることに気づきました。

私の家は自動車修理をしています。小さい頃から、車を修理する音や、洗車する音などをよく聞いていました。両親や祖父母の会話でよく飛び交う言葉に「車検」という単語があります。数年に一度だけ行う車検にも税金がかかることを知りました。それは、「自動車重量税」です。「自動車重量税」とは、検査をして次の車検期限まで乗れるようにする税金です。この税金は、道路の補修に使用されます。一見、同じ税額でもよさそうですが、自動車の重さによって納める税額が決められています。道路にかかる負担は、車の種類によって大きく異なります。そのため、重い荷物などを運ぶ大型車などは、普通車より多くの税金を払います。また、小さい軽自動車などは普通車より少ない税金を納めます。このように細かく税金を調整することで平等になるのです。

「自動車重量税」の他にも「自動車環境税」というものがあります。この税金は、自動車の二酸化炭素の排出量によって税額が決まっています。古いガソリン車よりも、地球環境に配慮した車の方が納める税額が安くなっています。よって、ハイブリット車や電気自動車に乗ってもらいたいという狙いがあります。この税金があることで、地球沸騰化の防止に繋がるのです。

例を挙げた税金の他にも、細部にまで気を配り、様々なことに有効活用している税金はたくさんあります。このように、平等で、環境問題などの未来を見越した税金はすばらしいと思います。よりよい社会のために、これからも税金を理解して納めていきたいです。

（狭山市優秀賞）

安全で安心な社会をつくるために

西武学園文理中学校

一年　城野　翔太

「入院すると医療費はどれくらいかかってしまうのだろう」

私は、保育園を入園する前に感染症にかかって入院したことがある。幼少期であったので詳しくは覚えていないが、両親から小学生になって聞いた。病院に着いたときは、入院するとは思ってなかったようで、私の病状や費用のことで心配だったそうだ。病気はひどいことにならず、病院の医師や看護師、家族の助けもあって一週間で退院することができた。入院にかかった費用は少なかった。なぜなら、乳幼児医療証があったため、治療費がかからないからだと、小学生になった後で両親から聞いた。また、乳幼児の医療費補助は税金が使われていることを知った。

乳幼児の医療費の場合、健康保険組合が八割負担し、残りの二割は個人が負担する。しかし、税金で残りの二割分を補助しているため、実質的に医療費を私たちは負担しなくてよい。医療費補助で使われる税金は住民税である。ほかに住民税は、清掃事業や教育、福祉といった地域密着の公共サービスを賄うために使われている。具体的には、学校が児童に貸しているパソコン、学校のＩＣＴ設備や家庭で出たごみの収集などである。

家の前を通るごみ収集車をよく見かける。毎日収集するものによって数台来る。燃えるゴミだけではなく、リサイクルできるものも収集している。リサイクルできるごみは、スーパーマーケットなどの協力を得て、一箇所にまとめて地域の人がもってくるようにすることはどうだろうか。これによって、ごみ収集車が回る回数が減り、地方公共団体が使う税金が減ると考える。それだけでなく排気ガスが減るため、環境にもやさしくなる。

税金の無駄遣いをすると、医療費をすべて自己負担しなければならないことになるかもしれない。また、ごみ収集ができないことで、道にごみが捨てられることが多くなる。このようなことが進むと、日本の住環境が悪くなり生活できなくなる日が来るかもしれない。

国民は税金を払うことが義務である。私はまだ税金を払ってはいないが、将来は税金を必ず納めると心に決めた。今までの経験から介護や福祉、教育に税金を使ってほしいと思う。そして、日本国民全員が安全で安心な生活を毎日送り続けられるような社会になってほしいと思う。納税の義務を負っている代わりに税の使い道を知る権利が私たちにはあると考えている。そのために、納めた税金がどのように使われているかを確認していきたい。今からでも、両親が納めている税金の使い道を調べるようにしたい。私個人だけでなく地域や学校のみんなで協力して税金のことを考えて、よりよい社会をつくっていきたい。

（埼玉県議会議長賞）

新しい図書館

西武学園文理高等学校
二年　田中　迪実

私の市にあった図書館が新しくなった。新しくなる前の図書館は薄暗く本を借りられるだけの場所という感じであり、私も好んで行くという感じではなかった。

図書館の設備や本にはもちろん税金が使われている。そのため、図書館を活用していない人に「なぜ図書館に税金が使われているのか」という疑問が浮かぶのは無理もない。私も実際、図書館には本を借りられるというメリットしかないと思っていた。私の市の図書館が新しくなるまでは。

私の市の新しくなった図書館は四階建てでたくさんの自習スペースやカフェ、広々とした読書スペースがありとても過ごしやすい。ホールでは定期的に様々なイベントが行われており、イベントの際はとてもにぎやかになる。音楽スタジオやキッチンのある部屋なども借りることができ、習い事や趣味にも気軽に利用できる。私自身こんなに便利で居心地の良い図書館に出会ったことがなく、初めてこんなにも税金が私に還元されていると感じた。税金は私達の生活の中で医療や教育、町の整備など様々なことに利用されている。高校生の私達の普段の生活の中で、医療も教育も自ら進んで利用するものではない。そんな高校生でも消費税などの税金は払わなければならない。「私達高校生には全然税金が還元されていないな」そのように思う前にもっと視野を広げて自分から税金の使われている場所に身を置くことが大切だと思う。自分の払っている税金を大切にする。そのため私達にはどこに税金が使われているのかを考えながら日々生活していくことが求められる。例えば、図書館の自習スペースで勉強をする、夏は家のクーラーを使用せず涼しい図書館で本を読んで過ごす、など学生の私達でもできることがたくさんある。

税金の使われ方には様々な側面がある。そのため多角的な視点から税金の使われ方を見る必要があると思った。私がこんなにも見つけて嬉しかった税の使われ方があるように、みなさんにもきっと嬉しい税金の使われ方があると思う。これで私が今新しくなった図書館で書いている作文を終わりたいと思う。

（所沢税務署長賞）

笑顔税

西武学園文理高等学校

二年　齊藤　綾乃

去年の夏の夕暮れ、地元の公園で毎年開かれているお祭りに足を運んだ。家族と一緒に屋台を回り、楽しく過ごしていたとき、ふとこの光景は何によって支えられているのだろうと考えた。周りを見渡すと、神輿が通る道はしっかりと整備され、交通整理をする警備員たちが忙しく動いている。実はこれらすべてが、私たちが日々支払っている税金で成り立っているということを当時の私は知らなかった。

実際、このお祭りが開催されている公園自体も税金がなければ存在しなかったかもしれない。もし公園がなければ、私の小さかった頃の楽しい思い出やこの家との大切な時間もきっとなかったに違いない。税について調べていくうちに、私はこう言ってもいいのではないかと考えたことがある。私達が普段払っている税金は人々の笑顔のための税、「笑顔税」であると。例えば公共サービスを提供するための費用、医療費、警察署など生涯を通して私達が関わるであろうものに税金が使われている。つまり税金は私達の生活の基盤を支える重要な資源であり、その使い道は私達の幸福に直結しているのだ。

私はこの事実を知るまで税金という言葉に関心がなく身近に感じるものといえば消費税くらいで、ただ支払うものだという感覚しかなかった。税金を詳しく知るのは、二十歳になってからでいい。そんなことさえ思いながら、二十歳を迎えるまであと数年という月日が流れてしまっていた。しかし税金が適切に使われているからこそ、私達の生活に直接的な影響を与えていることに気がつくことが出来た。

税金の使い道を知り、その利点を実感することで私達はより良い社会を築くための取り組みに対する意識を高められる。昨年の夏の夕暮れ、公園でのお祭りではただ楽しい時間を過ごしただけだった。しかし税金がどれだけ私達の生活を支えているかを考えるようになった今年の夏のお祭り。同じ場所で過ごした時間が、去年とは全く違った意味を持つように感じた。税金の意義を理解することが、私達の未来をより良くするための第一歩であると、私は強く実感したのである。

（所沢税務署管内税務連絡協議会　会長賞）

戻ってくる税金

秋草学園高等学校
二年　森田　莉未佳

「税金を払いたくない。」と思ったことはあるだろうか。私は思ったことがある。その大きな理由として、自分には関係のないお金を支払っている気分で、損をしていると思えてくるからだ。しかし、このような税について調べる機会が増える度に、

「税金を払いたくない。」

と思うのが申し訳なく思える程、税の大切さをひしひしと感じることが出来る。

私は中学生の頃に、大変酷い頭痛に悩まされていた。それは、ほとんど毎日と言っていいほどの高頻度で、学校にもまともに行けない日々が続いた。そのような日々から一刻も早く抜け出すため、頭痛の原因は何なのか探った。すると、頭痛は首や肩こりから来る頭痛もあるらしく、頭痛の大きな原因として偏頭痛しか考えられなかった私は、すぐさま母親に伝えた。すると母は、近所に整骨院があることを知っていたらしく、その日のうちに治療しに行くことを決めた。整骨院に着くと、リラックスできるオルゴールの音色と共に、整骨院の先生がやってきた。先生とスタッフさんはとても気さくで、優しく接してくれたため、その時の緊張はすぐにほぐれた。先生曰く、やはり首や肩凝りからくる頭痛に悩まされている人が多いらしい。私はその時、自律神経のバランスを整えることを目的とした、ハイボルテージ治療器とマッサージでの治療を受けた。治療後は、驚くことに気だるさや頭痛はだいぶ治まった。日々の姿勢やスマートフォンなどの使いすぎから来た頭痛だとわかり、生活を見直そうと感じた。先生に感謝を伝え、料金を支払おうとしたところ、私が思っていたよりも遥かに料金が安く、とても驚いた。何故こんなにも料金が安いのかと疑問を持っていると、十五歳までは保険が適用するため安くなったのだという。

私はこの経験を通して、税金は私達を支えてくれるものであり、尚且つ戻ってくるものではないかと感じることができた。税金を払いたくないと思ってしまったことがあったけれど、税金は私達が気づかぬうちに身近なところで使われているのだ。身近なところといえば、公園や学校の校舎などの私達が重要となるところに使用されている。さらには、火山の噴火や地震などの命に関わる際に使用されていたりと、国を支える原材料になっているのだ。そのため、税金を払うことは国を支えることでもあり、私達を支えるためにもなっていると思う。私はその数々の事実に感謝しながら、もう税金を払いたくないと感じず生活していきたい。

（所沢税務署管内税務連絡協議会　会長賞）

税金の重要性

西武学園文理高等学校

二年　髙橋　優奈

私たちの住んでいる日本は水道の蛇口をひねればきれいな水が出てそれを飲むことができる。母からよく水の無駄遣いに気をつけてと注意される。私が生きてきた中では、水がなくて困ったことはない。しかし、私は小学生の頃に発展途上国のカンボジアに訪れた。そこでは、水道施設などインフラが整備されておらず、すぐに水が手に入らない状態であった。そのため井戸がない村の人々は池や川湖など住んでいる場所から近い水源に頼るしかなく、ようやく水源にたどり着いても、その水は多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水であるということを学んだ。カンボジアに訪れる前までは親が水道料金を払っているし、飲める水が家に通っているのは当たり前の権利だと思っていたが当たり前に飲めない国の人たちもいることを知った。

そこで、実際に現地の人に尋ねた所、最近ＮＰＯ・ＮＧＯが井戸を掘り、井戸の水を汲み上げるための手押しポンプ用の器材を送るなど支援をしているそうだ。井戸が行き届いていない地域では、子どもたちが学校へ行かず水汲みの手伝いをしている。水を汲む時間がどれぐらいかかるかわからないが、一往復するのに大体一時間かかるとしたら、一日十時間水汲みをしていることになる。発展途上国で子どもたちが学校に行けないのはこれが最も多い原因である。ネットで調べると、子どもたちが重そうな大きいバケツをもっているような写真しかない。私は衝撃を受けた。

いま私たちが当たり前のように蛇口をひねればきれいな水が出て、飲めるのは当たり前の幸せではないことに気づかされた。また、その幸せは「税金」のおかげだということにも。私たち国民は税金が高くなると悪い印象しかもたない。それは当然のことであるが、私たちの生活をささえてくれる「必要な存在」であると学んだ。今回の作文を通して、税金が社会に果たす役割やその仕組について深く理解することができました。今後は、税金を納めることの重要性を再確認し、社会のために貢献するために努力していきたいと思います。

（一般社団法人所沢法人会会長賞）

第一歩

秋草学園高等学校

二年　中村　天音

税の作文を課題で出された時に、改めて私は税について考えてみた。結果頭に浮かんだのは税金制度のことだった。日本に住んでいる以上、私たちは生活していく上で必ず払わなければいけないお金がある。日本国憲法第三十条「国民は法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」すなわちこれは国民の三大義務の一つだ。しかし、私たち子どもはあまりにも税金について知らなすぎる。実際私も税金というものは知っていたが詳しく知るつもりもなかった。むしろ「なぜ、税金を払わなければいけないのだろう」とすら思っていたのだ。というのも、私たちが普段営んでいる日々の生活は親が税金を払ったためにできていると理解していなかったからである。

以前、他の国の子どもたちが、学校へ危険な道を毎日何時間も歩いて向かっていることを授業で知った。映像の中の子どもたちは、それでも勉強したいから通っていると笑顔で話していた。頭を殴られた様な衝撃を受けた。私たちが通る綺麗な舗装された道。それがどれほど恵まれていることか。私はこの道がどうやって作られたのか疑問に思い、調べてみた。そして、それは国民が払った税金によって作られていたものだと分かった。これが税金制度に興味を持ったきっかけだ。

納められた税金の使い道は多岐に渡る。身近なものとして教育費や医療費の一部負担、環境の視点でいえばゴミの処理費用などがある。もし税金制度がなかったら、勉強したくても教科書や勉強机などを自分で買わなければいけない。病気になれば医療費を全額払わなければいけない。そんな社会で私たちは安全に快適に過ごせるのか。そう考えた時、絶対に無理だと確信した。税金制度が私たちに与えてくれる安心感を強く感じた。

何年も前に消費税が五％から八％に、そして政府への批判が集まる中、一〇％へ引き上げが決まった。背景には、やはり少子高齢化が関係しているのだろう。高齢化が進むと、税金が使われている医療や介護に必要な費用が増える。よって昔の税金制度では高齢者以外の生活も苦しくなっていた可能性がある。この問題を私たち高校生でも無関心ではいけないのだ。選挙権の投票年齢も満二十歳以上から満十八歳以上に引き下げられた。つまり、高校三年生の時には投票ができるのだ。私たちが政治に興味を持ち、税金の使い道をしっかり示してくれる人に政治を任せるため、税金制度について理解しておくことは必要不可欠だ。

税金とは、私たちの生活と健康を守ってくれる国民の味方だ。それを当然だと思わず、国民一人一人が幸せで快適な生活を送っていくためにも、各々自分の責任をきちんと理解しさまざまな形で政治に参加していくことが、この国をよりよくする第一歩なのだと私は思う。

（一般社団法人所沢法人会会長賞）

日本というキャンバス

西武学園文理高等学校
二年　名古屋　紫央

私は東京都にある瑞穂町というところに住んでいる。都心から約一時間程離れた自然豊かで穏やかな町だ。

高度経済成長期に急激に人口が増加したこの町であったが、近頃では私の近所にも一人暮らしの高齢者の世帯が増え始め、町内の小学校の学級人数は減ってしまっている。そう、この瑞穂町にも少子高齢化の波が少しずつ少しずつ押し寄せているのだ。この現状に気づいた時、私の頭に近所のお婆さんが思い浮かんだ。

そのお婆さんには幼い頃からお世話になっていて、私が生まれる前までは旦那さんと一緒に暮らしていたそうだが、私が小学校に上がる頃に死別してしまい、そこから一人で暮らしている。元々免許は持っておらず、よく自転車で元気に出掛けていたが、一昨年の夏に階段で転倒し、買い物やお出掛けをするのが一気に難しくなってしまった。

そのお婆さんにはお子さんがいなかったので怪我が良くなるまではわが家も含め地域の人々で協力して代わりに買い物をしたりした。

当時、町にはバスが通っていたがお婆さんのお家からは徒歩二十分程で、皆よくその不便さに不満を漏らしていた。

そんなある日、町の至る所に真新しくバス停が立ち並んだ。そして私の家の前にもバス標識が立てられた。瑞穂町にコミュニティバスが運行するようになったのだ。これは町が年々増加する免許返納者や一人暮らしの高齢者に向けて、福祉用にまわしてきた町税のほとんどを費やしてバス停の数から便数まで大幅に増やしたというものだった。おかげで近所のお婆さんは再び一人で出掛けることができるようになっていった。

この一件から私は税金とその使い道についてより一層興味を持つようになった。普段から買い物などを通して税金を払っていることは知っていても、それがどのような場面でどの様に社会に貢献しているのか、税について学んでいくにつれて自分の知らないことが山程あったことに気づかされた。

またこれから社会に出て働いて税金を納めていくことになる私達だが、この日本という大きなキャンバスに税という絵の具を塗り広げて、日本という国を彩っていけるような立派な社会人になりたいという希望を、この経験から持つようになった。

（所沢県税事務所長賞）

誰もが暮らしやすい世の中に

西武学園文理高等学校

二年　宮岡　真央

私の母は、地域包括支援センターの看護師の仕事をしている。母が病院で働いている頃は、介護保険のことはほとんど知らなかったが、自分の母がどのような仕事をしているのか、見聞きしていくことで介護保険のことをより深く知るようになった。

介護保険制度とは、地域に住む介護を必要とする人たちに費用を給付し、サービスが受けられるようにサポートする制度のことである。多くの高齢の人たちが、住み慣れた地域でその人らしく暮らしていくために、支援を受けることや、介護予防をしながら生活をしているそうだ。人それぞれ、介護度は様々だが、介護保険制度があることで、高齢者が多くの人との関わりが出来ること、必要な支援を受けることが出来ること、介護を受ける人や、介護をする家族が一人で抱えず、みんなで支えていくことが出来ていることが分かる。

私の祖父も、私の住む隣の市で一人暮らしをしている。心臓の持病や、歩行の不自由さがあり、介護保険を使って毎週リハビリに通っている。リハビリ先で一生懸命に運動し、同年代の人との関わりや、友人の輪を広げている。沢山の人と関わることや、リハビリで筋力や体力の強化をしていくことは、今後元気に暮らしていくことや、認知症予防に繋がると思う。祖父は年々体力がつき、友人たちと絵画サークル活動を楽しんでいる。心臓を悪くした時より、明らかに元気になった。

高齢者であっても、日々の暮らしに目的を持って暮らすことは、地域の活性化にも繋がっていくのではないかと感じる。介護保険制度があったことで、私の祖父のように、多くの人との関わりや、介護予防が出来ている人が沢山いることがわかる。この介護保険制度は、四十歳以上の人の保険料と、税金から成り立っている。現代のような、少子高齢化や、核家族化が進んでいる日本において、重要な社会保障の一つとなっていることがわかる。私の祖父や沢山の高齢者が、税金によって支えられている。元気で、病気や怪我をせずに過ごせることは医療費の削減に繋がるだろう。

みんなが税金の大切さを知って、今後も地域が支え合う世の中であってほしい。私も納税者となった時には、納税の意味をしっかり理解し、社会を支える一員となりたい。そして、税金によって支えられている社会について、しっかり考えていきたい。

（所沢県税事務所長賞）

税金でつなぐ支援の輪

西武学園文理高等学校
二年　村上　華奈映

今年の夏休みを利用して、能登半島地震の被災地である七尾市で災害ボランティアに参加した。一月一日の震災から半年以上が経ち、世間の関心は薄れつつあり、ニュースも減少している。ニュースが少なくなったということは、復興が順調に進んでいる証拠だと捉えていた私は、現地の状況を見てショックを受けた。崩れた家屋の下敷きになったままの車や液状化でドミノ倒しのようになっている民家など、私の想像をはるかに超える現実が広がっていた。片付け作業のために壊れた家に立ち入った時、私の中で何かが揺さぶられた。その家からは私の祖父母の家と同じ匂いがして、「ここにも家族が住んでいて、ここも誰かの大切な家だったんだ」と実感した瞬間、思わず涙がこぼれそうになった。

ボランティア団体の方にその家に住んでいた方の所在を尋ねたところ、現在は仮設住宅に住んでいるとのことだった。仮設住宅とは、災害で家を失った被災者が一時的に生活するための簡易的な住まいであり、プレハブ構造で設置される。被災者が新しい住まいを見つけたり、元の家が再設されるまでの間に使われるそうだ。建設費用や運営費用は、主に国や地方自治体の税金で賄われており、被災者生活再建支援法などに基づき国から地方自治体に補助金が交付されている。また、仮設住宅に住む人々には生活支援費が支給され、電気や水道といったインフラ整備にも多くの税金が使われていることを知った。

災害時には、税金がどれほど多くの命や生活を支えているのかが明確に見えてくる。例えば、災害が発生した直後、すぐに必要とされるのは、避難所の設営や救急医療の提供、食料や水の確保などの緊急支援だ。これらの緊急対応にかかる費用は、全て税金によって賄われている。この様に、税金があるからこそ、政府や自治体は迅速に対応し、多くの命を救うことができる。さらに、災害から時間が経つと、長期的な復興支援が求められる。壊れた道路の修復や、ライフラインの復旧にも税金が使われている。もし税金がなければ、こうした復興活動は滞り、元の生活に戻るまでの時間が伸びていただろう。税金は、被災者が新たな一歩を踏み出す為の支えとなり、地域全体の復興を後押しする原動力なのだ。

被災地での支援活動を通じて、税金は私たちの命や生活を守る大切な仕組みであることを強く実感した。今後も日本では自然災害が発生する可能性があり、その度に迅速で効果的な対応が必要だ。私たちが納める税金は、緊急時の支援の為の準備資金であり、安心して暮らせる社会を築く大切な基盤なのだ。だからこそ、私は税金の使い方について考え、より多くの人がその重要性に気づくよう働きかけたい。税金が被災地の復興に使われる事で支援の輪が広がり、復興が更に加速するだろう。そして、自分の地域が災害に見舞われた時にも、同じ様に迅速で十分な支援が受けられる社会を目指していきたいと強く感じている。

（狭山市納税貯蓄組合長賞）

世界に誇れる行政サービス

西武学園文理高等学校
二年　木部　太陽

気が付くと僕は病院のベットに横になり、点滴のチューブにつながれていた。病院の先生と看護師さんが母に、

「頭を打っているから念のため大きな病院に行って検査したほうがいい。」

「救急車を手配したのですぐに来ますよ。」

と話す声が聞こえた。数分後、救急車は到着し、僕は救急隊に運んでもらい、救急車に乗せられ大きな病院へと運ばれた。

高校二年の五月、僕は熱が出て学校を休んだ。午後になっても熱は下がらず、家の近くのかかりつけ医に行った。コロナもインフルエンザも陰性で薬をもらって帰ろうとしていた途中、意識がなくなりそのまま病院の前で倒れてしまった。救急車で運ばれた病院では一晩入院となったが、幸い検査の結果どこにも異常はなく、次の日には熱も下がりすぐに退院することができた。高熱が原因の脱水症状の一つで意識がなくなってしまったようだった。

今回、税について考える機会にこの出来事を思い出した。僕が乗った救急車には一体いくらのお金がかかっていたのだろう。調べてみると救急車は一回出動するのに約四万五千円の費用がかかるという。令和四年度の救急車の出動件数は約七二〇万件なので、単純計算で一年に三千億円以上の費用がかかっている。日本では救急車は行政サービスの一つで費用は税金で賄われる。そのため、利用者に費用を請求されることはなく、僕の時も母は支払っていないと言っていた。驚いたことに世界の多くの国では救急車を呼ぶには費用がかかり、アメリカではすべて有料で日本円で約四万五千円と日本と同額を個人が支払う仕組みとなっていた。世界的に見ても救急車が無料の国は少なく、エリアが限られるイタリア、イギリス、香港、事故などの条件付きで無料となるシンガポールと五カ国のみだった。

僕が特に素晴らしいと感じたのは、納税の有無や人種、国籍などにかかわらず、日本にいるすべての人が原則無料で救急車を呼べることだ。日本人だけしか使用不可とか税金を払っていないから乗車拒否とかそんな条件はなく、困っているすべての人を救いたいという考え方は世界に誇れる行政サービスなのではないかと思う。この素晴らしい行政サービスを今後も守り続けていくためには、救急でない軽症の人がタクシーのように救急車を利用したり、いたずらで救急車を呼んだりすることをなくすこと。また、日本国民一人一人がしっかりと納税し、救急車に必要な経費が税金で賄っていけるようにすることが大切であると思う。国民の三大義務である納税をしっかりできる大人になりたいと思う。

（狭山市優秀賞）

なぜ税があるのか

秋草学園高等学校

二年　後藤　美咲

私たちが日常生活を送る中で、税金は常に身近に存在しています。給料からは所得税が引かれ、買い物をすれば消費税を支払います。しかし、税金がなぜ必要なのかを深く考える機会は少ないかもしれません。税金がある理由を理解することは、社会の仕組みや私たちの生活を支える基盤を理解することに繋がります。

まず、税金は国や自治体が公共サービスを提供するための財源です。私たちの生活に欠かせないインフラや教育、医療、福祉など、多くのサービスは税金によって支えられています。例えば、学校や病院の運営、道路や橋の建設と維持、警察や消防などの公共機関の活動も、すべて税金によって賄われています。これらのサービスは、個々の市民が直接支払うことではなく、皆で公平に負担することで提供されます。そのため、税金は私たちの生活を安全で快適なものにするために欠かせないものです。

次に、税金は社会の公平性を保つ役割も果たしています。所得税や相続税などの税制は、所得の多い人ほど多くの税を支払う累進課税が基本となっており、これにより所得の格差を是正し、社会全体の安定を図ることができます。また、税金は低所得者や高齢者、障がい者など経済的に弱い立場にある人々を支えるための財源でもあります。社会保障や福祉制度は、すべての人が基本的な生活を維持できるようにするための仕組みであり、税金によって支えられています。したがって、税金は富の再分配を通じて、社会の連帯を強化する役割を担っているのです。

さらに、税金は将来への投資でもあります。教育や科学技術の研究開発、環境保護、インフラの整備など、長期的な視点で社会を発展させるためのプロジェクトも税金で賄われています。例えば、道路や橋などのインフラ整備は、今日の私たちが直接恩恵を受けるだけでなく、未来の世代にも役立つ投資です。科学技術や医療の研究開発も、将来の社会をより良いものにするため重要な投資であり、それを支えるのも税金の役割です。

このように、税金は私たちの生活を支え、社会の安定と発展を促すために不可欠なものです。税金がなければ、公共サービスは提供されず、社会的な格差も拡大し、私たちの生活は不安定なものとなるでしょう。税金は、私たちが豊かで安全な生活を送るための共通の負担であり、また次世代により良い社会を引き継ぐための投資でもあります。そのため、税金の重要性を理解し、私たち一人ひとりが社会に貢献する意識を持つことが大切です。

（狭山市優秀賞）

かけがえのない日常

西武学園文理高等学校

二年　金谷　優美

税金は、私たちの生活に必要である、と今まで先生方や両親に教えて頂きました。しかし、税金は難しそう、種類も多くてどこから学べば良いか分からない、と感じてしまい、自分から詳しく調べるということをしてきませんでしたが、この機会によく考えてみようと思いました。私が最初に思いついたのは学校です。なぜなら、学校には沢山の税金が使われていて身近であるためです。学校では、教材や小中学校の先生への給料などに使われていますが、学校に行くまでの道路や信号機までも税金でつくられています。そこで、国税庁のホームページでどの位の額が、教育費いわゆる文教及び科学振興費に使われているのかを調べました。すると、五兆四千七百十六億円ものお金が使われていることが分かりました。また、公共事業関係費という道路や住宅の整備のために六兆八百二十八億円が使われており、文教及び科学振興費と同じ位使われていることに驚きました。これらの資料から、税金は大人だけでなく、高校生である私達にも大きく関わっているということを実感することができました。私は今、テニス部に入り、毎日充実した楽しい生活を過ごしています。しかし、税金が無いと、この何気ない日常ですら過ごせなくなってしまうと考えると、とても悲しいです。それだけでなく、税金が無いと、クラスメートや部員の人、先輩や先生など大切な人とも出会えなかったかもしれません。税の作文を書くことを通して、税金は私たちと密接に関わっていて、私にとってもとても重要なものだということを知ることができました。また、もっと税金の役割や重要性を多くの人に知ってもらう必要があるとも思います。そのために自分が出来ることとして、ＳＮＳで広めたり、学校のプレゼンの場で発表するなどがあります。そして、税金は身近な存在であることや、マイナスの事だけでなくプラスの事も考える機会をつくりたいと思います。現在は、税金を使わせて頂くことが多い私ですが、二年後には様々な税金を納める立場になります。その時に、弟や妹に、きちんと税金について教えられる姉になれる様、これからも日々学び続けます。

（狭山市優秀賞）

我々と税

西武学園文理高等学校

二年　中園　雅大

私はふと税の意義と役割について考えると、それが単なる個々人の負担にとどまらず社会全体の成り立ちに深く関わっていることに気づきました。私たちが日常生活を送る上で道路や橋、公共交通機関、教育、医療など、さまざまな公共サービスに依存していますが、これらはすべて税金によって支えられています。税は私たちが安心して生活できる生活基盤を維持し、共通の利益を実現するための資金源です。

税の役割は単に社会インフラや公共サービスを提供するだけではありません。税制は所得や財産の再分配を通じて社会の格差を是正する役割を担っています。例えば、所得の高い人々に対しては累進課税が適用され、低所得者層には税負担が軽減される仕組みが採用されています。これにより経済的不平等を緩和し、社会全体の安定と公平を保つことが可能になります。

近年、消費税増税や富裕層への課税強化など税に関する議論が活発化しています。消費税は、すべての消費者が一律に負担するため、広く公平な税と見なされがちですが、実際には低所得者層により大きな負担を強いる側面があります。そのため、消費税の増税が実施されるたびに生活への影響が懸念されることが多いです。例えば、二〇一九年に消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられた際、多くの家庭では日常の出費が増加し、家計への負担が大きくなりました。一方で、富裕層や大企業への課税強化も議論の的となっています。特にグローバルな企業が税制の違いを利用して税負担を軽減する問題は深刻です。このような税逃れが横行すると、所得の不平等がさらに拡大し、社会的な不満が高まる可能性があります。そこで、国際的な協調を通じて、公正な課税を実現する取り組みが進められています。例えばＯＥＣＤによる多国籍企業に適正な税負担を求める試みとして注目されています。

税に関する意識を高めることもまた、社会の一員として重要です。税は私たちが負担するコストであると同時に、より良い社会を築くための投資でもあります。私たち一人ひとりが税の意義を理解し、どのように社会に貢献できるかどうかを考えることが持続可能な社会を実現するための第一歩だと私は考えます。

このように税は単なる負担ではなく社会全体を支える重要な柱であり、私たちの生活の質を向上させるための不可欠な要素です。税の意義と役割を正しく理解し、それに基づいた行動を取ることがより良い社会を築くための鍵になると私は信じます。

（狭山市優秀賞）

みんなで応援税

西武学園文理高等学校

二年　山﨑　允誠

ジリジリと焼けるような日差しと、沸騰したヤカンの蓋を開けた時のようなムワッとした熱風に絡まれ、逃げるようにコンビニに入った僕は迷わず炭酸を手に取った。水と迷ったが、こんな時はシュワッとして冷たいやつをゴキュッとやりたいのだ。

最近はレジでもピッとやるだけなので、炭酸の値段がいくらかなど気にも留めていなかったが、後から調べると一一八円（税込一二七・四四円）という表示だった。僕はこの買い物で、九円税金を払ったが、この税金は何に使われているのだろうか。

国税庁のウェブサイトを見ると、社会保障、公共事業、文教・科学振興、防衛、その他多くの項目があり、私たちの健康や生活、暮らしやすい環境、学校教育や科学技術発展、その他のために役立てられているということが分かった。意外と身近なところに使われていたのだなと思った。

近ごろ少子化のニュースをよく見る。出生率が低下し、深刻な問題になっている。税金を支払う人口が減ってしまうと、誰が税金を支払うのか。あぁ、それは僕たちだ。僕たちが支えていかないといけない。

人口が少なくなっても税金によって今と同等の暮らしを支えるためには、何かの助成事業を縮小、削減したり、税金を増やすしかない。今後一〇年で出生率は半減するという見方もあるように、急激に変化する世の中で迅速に税金を増やすことができるのだろうか。

今回、税金の使われ方を調べたが、どれも必要な使われ方で、縮小、削減することは難しいと思った。となると、どう税金を増やしていけばよいのか。

僕が支払った九円は何かに役立てて欲しいし、役立つというのであれば、もっと払っても良いと思う。今の僕では大きな金額を払うことはできないが、少額であればもっと応援したいという気持ちがある。ただ、もっと応援しようにも、少額から応援できる仕組みがない。

そこで僕は考えた。ある商品を購入すると通常の消費税に加えて少額の税金を加えて支払う仕組みだ。ただ金額を上乗せするのではただの値上げになってしまうので、この支払いは橋や道路など、公共施設の建設、維持に使われますよとか、警察官や先生を応援しますよ、最新医療の研究や医療費の一部負担に使われますよなど、ぱっと見て分かる金額とマークを作り、商品のラベルに印刷したり、シールを貼ったりしてはどうだろうか。納める税金の金額とその用途を明確にし、社会全体で応援する仕組み、名付けて「みんなで応援税」だ。

税金は納める人やお店、会社があって成り立っている制度であり、その中心となる人口の減少は社会全体の問題だ。そういった問題は、みんなで解決をしようとする動きが大切で重要だなどと熱く考えていたら、どうやら汗も引いてきたようだ。

狭山市 七夕の妖精

おりぴい